

なんそうさとみ はっけんでん
南総里見八犬伝

第一回

たぎざわ ばきん
滝沢馬琴

京都きょうとの将軍しょうぐん、鎌倉かまくらの副将ふくしょう、武威ぶい衰おとろえへて偏執へんしゅうし、世よは戦国せんごくとなりし比ころ、難なんを東海とうかいの浜ほとりに避さけて、土地とちを開ひらき、基業もとゝを興おこし、子孫しそん十世じっせに及およぶまで、房総あわかずさの国主こくしゅたる、里見治部大さとみ ぢぶ たい夫ふ義実朝臣よしぎね あつそんの、事蹟じせきをつらく考かんがうに、清和せいわの皇列みすえ、源氏げんじの嫡流ちやくりゅう、鎮守府将軍ちんじゆふ しょうぐん八幡太郎はちまんたろう、義家朝臣よしいえ あつそん、十一世じゅういつせ、里見治部さとみ ぢぶの少輔源季基しょうふゆ みなもとの すえもとぬしの嫡男ちやくなんなり。時ときに鎌倉かまくらの持氏卿もちうじきょう、自立じりゆうの志こころ頻しばしばにして、執権しつけん憲実のりぎねの諫いさめを用もちいひず、忽地たちまち嫡庶ちやくしよの義ぎを

わすれて、室町將軍義教公と、確執に及びしかば、京軍むろまちしょうぐん よしのりこう、かくしつ およきょうぐん
猛にわかによせ来りて、憲実きたに力を戮あわし、且戦かつたたいひ且進かつすすんで、持氏父もちうじ
子しを、鎌倉ほうこくじなる、報国寺おしこめつつに押籠つめばらつゝ、詰腹きを切らせけり。
是これはこれ、後花園ごはなぞの天皇てんのうの永享えいきょう十一年、二月十日にんがつとうかのことに
なん。